

作物部門 6次産業化に挑戦

内 容 秋田県の農業産出額の低迷から、農業の6次産業化を目指し、地域の精肉店と連携しながら単なるジャガイモの栽培だけではなく、付加価値を付けいかにして商品として販売ができるか調査研究する。

期 日 平成31年4月26日～令和元年12月17日

対象生徒 農業科学科3年68名（課題研究含む）、農業科学科2年12名
選択A群作物履修生徒23名

実施内容 本校大嶋農場「研究圃場」を利用し、堆肥の散布、施肥等の土壌づくりからマルチングの効果を確認しながら定植、栽培管理を学習しました。ジャガイモ収穫後は、地域の精肉店と連携し、「自分たちがつくったジャガイモがこんなにおいしいコロッケになる」ということに興味・関心をもたせ、学校設定科目である「農と食」とも関連付け、栽培から加工・販売に至るまで、栽培農家の観点、食品加工業者の観点、消費者の観点的あらゆる目線から意識をもたせました。

成 果 農業科学科の実習においては農産物の栽培が中心となっている。しかし、儲かる農業を目指した場合、加工、販売という6次産業化が大切な要因になることが理解できた。また、自分たちがつくったジャガイモが単なるジャガイモではなく、コロッケに加工することにより立派な商品とし流通できることを確信した。

